

2019年4月

会 員 各 位

ユニシス研究会  
新 潟 支 部

## 2019年度『新潟支部研究活動』メンバー募集のご案内

拝啓 時下益々ご清栄の事とお慶び申し上げます。

平素はユニシス研究会活動にご協力、ご支援を頂き厚くお礼申し上げます。

ユニシス研究会では、会員の皆様が日常業務の中で抱える課題やこれからのITを駆使した働き方、AI活用などをテーマに、会員同士や日本ユニシスグループ社員との情報・意見交換の場、また相互研鑽の場として、各種の研究活動を推進しております。

今年度も会員企業の皆様を対象に「グループ研究」形式による研究活動を実施致します。

今年度のテーマはご参加頂くメンバーでお話し合いの上、決めて頂く事に致します。

第1回目の会合では発足式を兼ねテーマ選定を予定しております。

研究活動の成果は来年3月6日開催予定の「研究活動発表会」でご発表いただく他、特に優れた成果には、ユニシス研究会で最も栄誉ある「エッカート賞」候補として推薦されます。

詳細は次ページ以降をご覧ください、ビジネスヒントの発掘や企業の枠を超えた人材育成、新しい交流の場として、ご活用いただきたく、多数のご参加をお待ち申し上げます。

敬具

添付資料1. 「新潟支部研究活動」メンバー募集・運営要項

2. 2019年度研究活動 活動テーマ案

3. 参加申込書

以上

《添付資料1》

## 「新潟支部研究活動」メンバー募集・運営要項

### 1. 活動概要:

特定の研究テーマを、参加メンバーの自主的な運営により、継続的に研究していく活動です。

### 2. 研究テーマ:

テーマは参加メンバーでお話し合いの上、決定していただきます。

テーマ案は、《添付資料2》をご参照下さい。

### 3. 参加資格:

ユニシス研究会会員企業の方で、継続して参加可能な方とします。

### 4. 参加費:

(1) 年間の活動費として研究活動参加費は1会員20,000円を申し受けます。

参加メンバー確定後、「連絡責任者」へ参加費をご請求させていただきます。

(2) 活動の為の移動交通費・旅費などの経費は、参加会員の負担とさせていただきます。

### 5. グループの構成:

(1) 参加メンバー5名以上をもって1グループを構成します。

(2) 参加メンバーの中から、「リーダー」「サブリーダー」「書記」を互選する事とします。

(3) 活動には、日本ユニシスグループより選出されたテクニカル・アドバイザーが参加し、研究活動を支援します。

### 6. 活動期間と会合回数:

(1) 活動期間は本年5月から翌年3月までとします。

期間中、月1～2回程度の会合(半日)を持ちますが、詳細はグループ運営の中で決定します。但し、会合時間は通常業務時間内とします。

(2) 活動自体は回数・時間を多く費やすことは決して良いことではありません。

ご自分の業務に支障をきたす活動は本来の活動の形ではありません。

参加メンバー皆様には限られた時間の中で効率よく活動を行っていただきますよう、予めご理解頂きご参加下さいますようお願いいたします。

(3) 『発足式 & 第1回会合』のご案内: 参加メンバーの方はご出席下さい。

・日時: 2019年5月24日(金) 14:00~19:30

14:00~17:00 発足式 & 第1回会合

17:30~19:30 情報交換会

・会場: 日本ユニシス(株)新潟支店講習室

⇒⇒⇒ 詳細につきましては、後日参加メンバーにご案内致します。

7. 活動運営について:

- (1) 研究活動の企画・運営は参加メンバーの自主運営とします。
- (2) 会合場所は、参加メンバーの交通利便等を考慮しながら、日本ユニシス(株)新潟支店及び参加メンバーの会社施設等を利用します。
- (3) リーダー・サブリーダーを対象に、グループの中間報告・親睦を図る場として、「サマースクール: 9月6日(金)~7日(土)1泊」を開催します。
- (4) 研究成果は、来年1月下旬に「研究活動報告書」として提出して頂きます。
- (5) 来年3月6日に「全国研究活動成果発表会」として新潟支部参加メンバー以外の方に向けて発表して頂きます。
- (6) 特に優れた成果には、「全国カンファレンス」等で発表して頂く事があり、「エッカート賞」やその他入賞制度の受賞候補として推薦されます。
- (7) ご報告(発表資料含む)いただいた研究活動成果(研究活動報告書、プレゼン資料等)の著作権は著者に帰属しますが、著者はユニシス研究会が主幹する「機関誌など刊行物掲載」、「WEB サイトへの掲載」など、ユニシス研究会としての研究活動成果配布に係わる一切の権利(個人名・会社名・所属先の公開を含む)をユニシス研究会に無償で許諾するものとします。

8. 申込方法:

≪添付資料3≫「参加申込書」にご記入の上、5月16日(木)迄にファックスもしくはメールでお送り下さい。

9. お問い合わせ: ユニシス研究会新潟支部事務局 山田

E-mail: [juua-niigata-info-r1@ml.unisys.co.jp](mailto:juua-niigata-info-r1@ml.unisys.co.jp)

TEL: 025-247-7321 FAX: 025-243-8698

以上

## 2019年度研究活動 活動テーマ案

	キーワード	テーマタイトル(案)	活動内容(案)
1	品質管理 (プロジェクト管理)	苦戦ITプロジェクトから 学ぶ品質管理について	日経コンピュータ誌の連載記事「動かないコンピュータ」は、システム導入の失敗事例や、システム開発、運用に潜むトラブルの種など、思わぬ落とし穴を明らかにすることで話題となったが、今や、どの企業の情報システム部門においても、一度はITプロジェクトで苦戦、失敗した経験があるのではないかと想像される。そのような事例について各企業から情報を収集し分析を行い、真の原因を簡素なメッセージで表した「教訓集」を作成するなど、今後のリスク回避のためのノウハウを研究する。この研究により、問題分析手法や失敗学(上位概念化)などの手法の習得も期待できる。
2	DevOps	DevOpsによるソフトウェア開発 の効果とリスク	ソフトウェア開発手法の1つであるDevOps。開発担当者と運用担当者の連携が必要となるが、課題解決に向け実装者としてのSRE (SiteReliabilityEngineering) の存在と役割を研究する。
3	音声認識	音声認識技術を活用した ビジネスの創出	AIアシスタント機能を搭載するスマートスピーカーが急速に普及し注目されている。「音声認識技術」の最新動向や活用事例について調査を行い、業務効率化への活用や新たなビジネスの方向性について研究する。
4	サブスクリプション	サブスクリプション型 ビジネスを考える	ソフトウェアや音楽、動画などデジタルサービス業界では今や当たり前となっている「サブスクリプション型ビジネス」であるが、既存のビジネスについてもデジタルトランスフォーメーションの波を受けて大きく変わろうとしており、この“必要に応じて必要な量だけのサービスを提供するビジネスモデル”に代わるための仕組みやその方法を研究する。
5	未来洞察	未来洞察の試行と その効果について	新たな事業戦略や新規事業創出の手法の一つとして「未来洞察」が様々な企業で使われている。本研究では、この手法の学習と試行(ワークショップ)を行い、仮想的な事業分野を定め、機会領域や未来年表を作成することで、中長期的な活動戦略の策定までを行う。この一連の作業を体験することにより、未来を見据える力を養うとともに「未来洞察」とはこういったものであるかの理解を深めることが期待できる。
6	ブロックチェーン	ブロックチェーンって いったい何？ どんなことに 注意しなければならない？ 新たなビジネスモデルの探求	近年のFinTechの潮流の中で、大きな話題となった「ブロックチェーン」であるが、そのユースケースは金融サービスにとどまらず、あらゆる業界においてその価値が見出されている。既にブロックチェーンとは何なのかを理解するフェーズから、仮想通貨以外でのビジネスでのブロックチェーンの実用化を模索するフェーズに移ってきている。本研究では、ブロックチェーンの基本に立ち戻って理解するところから始め、今後の活用にあたっての留意点や展望、新たなビジネスモデルでの活用方法などの探究を行う。その例として農産物や水産物の産地、ブランドを保証できるようなトレーサビリティ業務への活用などを期待したい。
7	APIエコノミー(経済圏)	API連携が生み出す 新しい経済圏とは	API(Application Programming Interface)を提供する人、APIを利用してサービスを提供する人、提供されたサービスを享受する人の3者間で出来上がる仕組みを「APIエコノミー」と言う。今後のビジネス展開において、社内外リソースの活用やビジネスサイクルの高速化に対応する手段としてAPIの提供や活用は不可欠になってきている。「APIエコノミー」を創出するために、どのようにAPIを提供し、活用するかを研究する。
8	資産可視化	システム運用における 既存資産の可視化	長年に亘って利用される企業内のIT業務システムは、ソースコードの肥大化、ソースコードとドキュメントの乖離、情報の属人化など、さまざまな要因によって情報そのものが劣化し、保守が困難化することが免れない現状がある。本研究では、既存の情報資産のうち、どのような情報を可視化することで、現状を容易に把握でき、困難となっている保守作業を改善できるかの検討を行う。
9	人工知能	データ活用と人工知能を活用 した企業内における デジタルトランスフォーメーション	様々なものがデジタル化され繋がる時代の中、すでに多くの分野で人工知能が活用されており、データと人工知能を活用した業務の生産性向上や省人化が進められている。この先さらに、人工知能はどういったところで活用されていくのか、またAI化が進むことによる社会問題を解決するためのサービス創出などについて、調査・検証を行い、次業務への活用に向けた提言や実証を行う。
10	データの利活用	企業内・外に存在する データを組み合わせ新ビジネス について考える	内閣府が提唱するSociety5.0実現に向けて、PDS(Personal Data Store)、情報銀行、データ取引市場という新たなデータ流通の仕組み・データ利活用が活性化している。本研究では、既存の企業内データ、オープンデータや新たに収集できるデータを組み合わせ活用することで、新ビジネスの創出や社会課題の解決などを検討する。
11	深層学習	深層学習適用における ワークフロー	画像認識や音声認識等の活用事例で「深層学習」への注目が拡がる中、要素技術やツールに関する情報は増えてきているものの、「深層学習」を適用する際のプロセスについては情報が少なく、担当者のスキルやAIベンチャー等の専門家に依存するところが大きい。そこで「深層学習」の既存業務への活用に向け、必要なプロセスや手順等のワークフローについて取りまとめる。
12	RPA	RPAの導入による 業務の効率化	最近、RPAの導入による業務の自動化が目立ってきている。これにより業務部門のスタッフが業務オペレーションから解放され業務の効率化、改善、イノベーションが進んでいる。働き方改革の一環としての導入事例もセミナー等で発表されており、RPA導入事例の研究と新たな分野への導入の可能性について研究する。
13	クラウド	クラウドを利用した 新たなビジネスモデルの探求	クラウド環境は、もはや企業には欠かすことができないITインフラとなった。一方でパブリッククラウド、プライベートクラウド、マルチクラウドなど「クラウド」と名が付いた選択肢は数多くあり、性質や用途が異なるそれらの中から、自社にとって最も適切なクラウド環境を選定する必要がある。オンプレミスかクラウドかといった観点においては、セキュリティ面での対策がどの程度実現できるかが大きな鍵となる。安全で最適なインフラ環境の選択、有効な利用方法について様々な角度から検証を行う。
14	働き方改革	働き方改革への ITの果たす役割	ワークスタイル変革の流れの中で、2020東京オリンピック開会式を「テレワークデー」と定め、業務実態に合わせて、在宅勤務/モバイルワーク/サテライトオフィス勤務等のテレワーク勤務を推奨するなど、「働き方改革」は早期実現が必要な重要課題となっている。現在はスマートフォンなどのモバイルデバイスやウェアラブル端末、AIスピーカーなどが身近になり、それらを利用した働き方の変化が予想される中、活用シーンがどの様に変化し、今後ITが果たしていく役割について探求する。
15	セキュリティ	働き方改革における 企業のセキュリティ対策	企業に働き方改革が求められるようになり、様々な機器、ワークスタイルで時間、場所に囚われずに仕事ができる環境が整ってきている。その一方で、企業の機密情報や個人情報などが漏えいする危険性は高くなってきており、このようなワークスタイルの変革の中で企業が実施すべきセキュリティ対策について研究する。

※具体的な、テーマタイトルならびに活動内容につきましては、グループ形成されたメンバーの皆様でご検討いただく事となります。

《添付資料3》

ユニシス研究会新潟支部事務局 行  
FAX:025-243-8698

## ユニシス研究会「新潟支部研究活動」参加申込書

### ■【個人情報の取り扱いについて】

ご入力いただくお客様の個人情報は、日本ユニシス株式会社、並びに当社のグループ企業、及びユニシス研究会が、1) 本セミナーに関する連絡・確認、2) 当社および当社のグループ企業等からの製品・サービスに関する情報提供、イベント・セミナー等のご案内及びマーケティングの目的で利用させていただきます。  
ご入力いただいたお客様の個人情報については、当社の「個人情報保護基本方針」に従い、厳正に取扱います。なお、個人情報の開示、訂正、削除、情報提供の停止等のお申し出、その他ご質問がございましたら、下記のお問合せ先までご連絡いただくか、当社ホームページからお申し出ください。また、当社グループ企業への個人情報の提供と、各社の個人情報保護方針については、下記リンク先よりご覧ください。  
ー当社グループ企業への個人情報の提供について [http://www.unisys.co.jp/privacy/u\\_group.html#1](http://www.unisys.co.jp/privacy/u_group.html#1)  
ー日本ユニシスグループ企業 各社個人情報保護方針 <http://www.unisys.co.jp/com/group.html>  
ーユニシス研究会 個人情報保護方針 <http://www.yuni-ken.gr.jp/privacy.html>  
以上の個人情報に関する取扱いにご同意いただけましたら、次の「同意する」にチェックをお願いします。  
【個人情報管理者】ユニシス研究会事務局 事務局長

同意する

【個人情報の問合せ窓口】ユニシス研究会新潟支部事務局  
〒950-0087 新潟県新潟市中央区東大通 1-2-25 北越第一ビル 電子メール: [juaa-niigata-info-r1@ml.unisys.co.jp](mailto:juaa-niigata-info-r1@ml.unisys.co.jp)

### ■【ご参加者】

複数名ご参加の場合は本紙をコピーの上ご利用下さい。

会員名			
住所	〒 (会員以外の方はご記入下さい)		
フリガナ 参加者名		所属 役職名	
電話番号	( )		
メールアドレス			
研究テーマ に関して	《添付資料2》をご覧の上、ご興味のあるテーマに○印をご記入下さい。(複数回答可) 1・2・3・4・5・6・7・8・9 10・11・12・13・14・15 その他( )		
備考			